

弘前城

翁

宝生 和英(宝生流宗家)
野村 萬斎(和泉流)
野月 聡(宝生流)

仕舞

高 砂

戴 克徳(宝生流)
笠之段
東川 光夫(宝生流)
難 波
武田 孝史(宝生流)

狂言

素袍落

野村 万作(和泉流)
蠟燭能 黒 塚
辰巳 満次郎(宝生流)

祝いの舞。



宝生 和英
(宝生流第二十世宗家)



辰巳 満次郎



野村 万作
(人間国宝)



野村 萬斎

弘前市民会館リニユーアル記念事業
2014年2月11日(火・祝)

会場／弘前市民会館大ホール 開場／13時 開演／14時

●料金(全席指定)／S席8000円・A席6000円・A席学割3000円

(学割は小学生から大学生までで、小学生未満の子どもは入場できません。)

●チケット販売／11月22日(金)から、紀伊國屋書店弘前店、さくら野百貨店弘前店、弘前市立観光館、どて箱弘前市社会教育協議会弘前文化センター内、陸奥新報社、リンクステーションのポみっとにて販売します。枚数に限りがありますので、お早目にお買い求めください。

●その他／会場の駐車スペースには限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

●主催／能狂言弘前公演実行委員会

●お問い合わせ／弘前城御能運営事務局 TEL.0172-33-3304 www.hirosaki-takiginoh.jp

ホームページからもチケットの購入ができます。

弘前城御能

検索



弘前城御能
携帯サイト



「三番叢」



狂言「素袍落」



能「黒塚」

●「翁」

「能にして能にあらず」といわれ、神聖な儀式として他の曲とは別格に扱われています。構成・詞章・謡・囃子・舞・面・装束など、あらゆる点で能・狂言の源流とも言える古風な様式によって出来上がっています。天下泰平、国土安穩、五穀豊穡を祈願する舞を舞い、延年を祝福するなど、祈りの芸術的表現ともいえるものです。正式には「式三番」と称し、演能そのものが神聖な祭と考えられています。開始の時刻が近づくと、出演者一同は幕内の鏡の間に列座し、後見役によって神酒がまわされ、一同杯を受け、洗米を口に含み、清めの塩をしてから始まります。「式三番」では面がそのまま神体とみなされ、役者が舞台でこの面を着けることにより神格を得ます。楽屋ではなく観客の前で面をつけ、また外すのも常の能では行われないことです。颯爽たる千歳の舞に始まり、荘重な翁の舞が終わると、狂言方の三番叢が〈採之段〉〈鈴之段〉と、大地を踏み固め、種を蒔き、五穀豊穡、子孫繁栄を祈るダイナミックな舞を舞って終わります。

今回、宝生流宗家 宝生和英・野村萬斎をはじめとする豪華出演陣が、リニューアルオープンする弘前市民会館の末永い繁栄と安全、そしてご来場の皆様のご多幸を祈願致します。

●狂言「素袍落」

急に伊勢参宮を思い立った主人は、かねてから同行を約束していた伯父を誘うため太郎冠者を使いにやります。突然のことなので伯父は断りますが、主人の供をするであろう太郎冠者に門出の酒をふるまい、饞別に素袍(中世の庶民の礼装)を渡します。上機嫌で帰宅した太郎冠者は、迎えに出ていた主人の前で調子に乗って動きまわっているうちに貰った素袍を落としてしまい…。人間国宝・野村万作の至芸で狂言の魅力をご堪能下さい。

●蠟燭能「黒塚」

諸国行脚中の那智の山伏祐慶と同行の山伏が、奥州の安達原で行き暮れ野中の一軒家に宿を乞います。家主である女は一旦は断りますが、一行の強い願いに根負けし招き入れます。女は自らの身の上を嘆きつつ、糸繰りの技を見せてもてなします。そして、夜寒に備え山に薪を採りに行くと言い、「私の闇(ねや)を決して見るな」と念を押し出かれます。ところが、能力は、祐慶の目を盗み闇の内を覗き見し、恐ろしい光景を目の当たりにします。女が安達原に住む鬼女であると知った祐慶たちは慌てて逃げ出そうとしますが、そこへ、鬼の姿となった女が約束を破った恨みを述べて襲いかかってきます。

今回は、炎のゆらめきによって描き出される陰影が、物語をさらに魅力的なものにしてくれる〈ろうそく能〉の演出でご覧いただけます。豪快さと繊細さをあわせ持ち、深い解釈で紡ぎ出される辰巳満次郎の能の世界をお楽しみ下さい。



宝生 和英 (シテ方宝生流第二十世宗家)

1986年十九世宗家宝生英照の長男として生まれる。祖父故十八世宗家 宝生英雄及び故父に師事。5歳で「西王母」子方にて初舞台。9歳で祝言「岩船」にて初シテ。その後、「翁」千歳「鷲」「石橋 連獅子」「道成寺」などを抜く。2008年、23歳で宝生流第二十世宗家となる。父亡き後、宝生流の名人たちに薫陶を受け実力・人気を兼ね備えた若き宗家である。



辰巳 満次郎 (シテ方宝生流)

1959年辰巳孝の次男として生まれる。父及び十八世宗家 宝生英雄に師事。4歳で初舞台。「石橋 連獅子」「乱」「道成寺」「翁」などを抜く。海外公演も多く、また新作活動にも参画し新作能「マクベス」や「六条」などの演出・主演もつとめる。2005年大阪文化祭賞奨励賞受賞。その他、全国で能楽の普及活動を行い、確かな技術とわかりやすい解説で人気を博している。



野村 万作 (狂言方と泉流／人間国宝)

1931年六世野村万蔵の次男として生まれる。祖父・初世野村萬斎及び父に師事。3歳で初舞台。秘曲「釣狐」に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞。その他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞など多数受賞。狂言以外に活動の場を広げた先駆けとしての功績も大きく、代表作に「月に憑かれたピエロ」「子午線の祀り」「秋江」「法螺侍」等がある。



野村 萬斎 (狂言方と泉流)

1966年野村万作の長男として生まれる。祖父故六世野村萬蔵及び父に師事。3歳で初舞台後、「三番叢」「釣狐」「花子」などを抜く。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞他を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。国内外での公演に参加する一方、朝の連続テレビ小説「あぐり」のエイスケ役で一躍注目を集め、その後、映画『陰陽師』や『のぼうの城』で主演をつとめ高い評価を得る。

弘前城御能を楽しむための「ワークショップ」

小・中学生、高校生 大歓迎

入場 無料・先着順

このワークショップは弘前城御能をより深く楽しんでいただくためのものです。能の世界を解りやすくご案内し、その歴史と魅力を理解していただき、また鑑賞と同時に自ら体験もしていただけます。敷居が高いと思われがちな能の世界が一気に身近なものになることでしょう。是非ご参加を!

●第1回／1月30日(木)「能面と能装束の魅力」

能の美しさを際立たせる“能面”と“装束”。2/1(土)～10(月)開催の「能面と能装束展」に先駆けて、日本の美意識がたっぷり詰まった能面と能装束の魅力を紐解きます。能面や着付け体験、能「羽衣」のダイジェスト上演など、初めての方から通の方まで、能の魅力を堪能いただけます。

●時間／午後6時～ ●場所／弘前市民文化交流館ホール(ヒロコ 4F) 定員200名※定員になり次第、入場をお断りする場合があります。

●講師／辰巳 満次郎(シテ方宝生流) 他

●第2回／2月10日(月)「弘前城御能をもっと楽しむために」

長い歴史と文化の中で親しまれ、現在、無形文化遺産でもある能楽。鑑賞するだけの能から、参加する能へ、舞台がより楽しくなる能の世界へご案内いたします。公演前日に一足早く「弘前城御能」の見どころ・ポイントを徹底解説!能の演技や所作を体験しながら楽しく学んでいただけます。

【能面と能装束展】江戸期の名品を間近でご覧いただけます。

●2月1日(土)～10日(月) ●時間／午前9時～午後5時 ●場所／弘前市民文化交流館多世代交流室2(ヒロコ 3F)